

プリズム順応テスト: prism adaptation test: PAT

参考) 眼科検査法ハンドブック4版 P82
の方法...主に手術量の決定として

準備物 **ブロックプリズム**又は**トライアルセット**・プリズマバー・視標・検眼枠

分離方法 **なし** 検査方法 **F 対 F (中和法の場合)**



目的

手術適応、術量の決定

必要に応じてあらかじめ完全屈折矯正眼鏡を装着させる

それぞれ遠見(5m)、近見(33cm)に置いた調節視標で、
優位(健眼)眼固視にて斜視角を APCT にて測定する



片眼で 30 以上の場合、プリズムを両眼に分けて測定すること。

主に後天性内斜視の場合

遠・近の斜視角に差がない場合

例)

	A.P.C.T	R-fix (s.c)
1/3m	30	Base out
5m	30	Base out

斜視角を中和する **プリズム**
を両眼均等に装着させる

均等に割り切れない場合、斜視眼に多めに。

例)

両眼に **15 Base out**
ずつ装着させる

遠・近の斜視角に差がある場合

	A.P.C.T	R-fix (s.c)
1/3m	40	Base out
5m	30	Base out

内斜視では斜視角の大きい方、外斜視・上下斜視では斜視角の小さい方の斜視角を基準にそれを中和する **プリズム**を両眼均等に装着させる

両眼に **20 Base out**
ずつ装着させる

約 1.5~2 時間



15分~30分ごとに APCT にて眼位のチェックをする。

斜視角が 8~10 未満の変動のみで眼位が安定している場合

YES

とりあえず NO でもトライ!

Bagolini 線条レンズにて正常
両眼単一視があるか?

YES

装用プリズムを 7~14 日間連続装着させても斜視角に変化(ほぼ 10 未満)がないか?

NO

YES

とりあえず NO でもトライ!

Bagolini 線条レンズにて正常
両眼単一視があるか?

斜視角が 8~10 以上増大して変動があり、正常両眼単一視ができない場合



約 1.5~2 時間

15分~30分ごとに APCT にて眼位のチェックをする。



眼位チェックし斜視角が 10 未満か?

YES

NO



プリズム反応例

ただし、NO からの場合は反応例とは言い難い。

装用プリズム度数を基準に術量を決定する



外斜視の場合、プリズム装用により複視が自覚されなくなり距離感もつかめるようになった時点で手術を考慮する。

プリズム無反応例

PAT を行う前のプリズム度数を基準に術量を決定する